

# 平成28年度第2回清掃事業審議会資料

## 目次

### (1) 報告事項

#### 【報告事項①】

熊本地震への災害派遣の概要について . . . . . P 1～P 2

#### 【報告事項②】

平成27年度のごみ・資源物量について . . . . . P 3

### (2) 前回の質問に対する調査・確認事項について

① 他都市における家庭ごみの有料化の効果と課題 . . . . . P 4

② 鹿児島市の人口及び家計状況 . . . . . P 5～P 6

③ 鹿児島市の高齢単身者世帯の状況 . . . . . P 7

## 熊本地震への災害派遣の概要について

熊本地震に係る廃棄物（可燃ごみ）処理について、環境省の外郭団体である（公社）全国都市清掃会議を通じて熊本県菊池環境保全組合（構成市町：菊池市、合志市、大津町、菊陽町）から支援要請があり、次のとおり対応している。

### 1 支援内容

菊池環境保全組合の環境美化センター仮置場（大津町）から、久留米市の上津クリーンセンターへの廃棄物（可燃ごみ）の搬送（約70km）

### 2 派遣期間

4月27日（水）から5月14日（土）まで

※ 当初は12日までの予定であったが、菊池環境保全組合から支援の継続要請があったため、14日まで延長した。

### 3 派遣車両・人員

ごみ収集車3台、連絡調整用車両1台、  
清掃作業員等11人（5月13、14日は8人体制）、延べ52人

### 4 処理状況

仮置場の約400トンのごみを5月9日（月）現在、6～7割程度処理した。



菊池環境美化センターの仮置場の様子(その1)



菊池環境美化センターの仮置場の様子(その2)



廃棄物積込みの様子



上津クリーンセンターへの廃棄の様子

平成27年度 本市におけるごみ・資源物の排出量について

【総括】平成27年度は、26年度に比べて微減となったが、ここ数年は横ばい傾向にある。

ごみ……………(横ばい)「もやせないごみ」、「粗大ごみ」は増加したものの、ごみ量の大部分を占める「もやせるごみ」が減少傾向の横ばいとなったことによるものである。

(「もやせるごみ」は家庭ごみの計画収集量および直接搬入量ともに減少傾向の横ばいとなっている。)

資源物……………(横ばい)「古紙類」以外の資源物は全て増加したものの、資源物量の大部分を占める「古紙類」が減少したことや紙離れによるものと考えられる。

埋立処分量……………(横ばい)「もやせないごみ」は増加したものの、埋立処分量の大部分を占める「もやせるごみ」の焼却灰が微減したことによるものである。

(焼却灰中の金属類を再資源化することにより、埋立処分場への搬入量が減ったことによる。)

【今後の課題】 ・ものを大切にしたり、繰り返し使うなど、ごみ減量につながる更なる3R意識の向上

・「もやせるごみ」への混入率の高い「古紙類」や「プラスチック容器類」等のより一層の分別による資源化の推進

・清掃事業審議会の提言を受けた家庭ごみ有料化など、新たなごみ減量施策の検討

(単位:t)

区分	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	27年度対前年比	
							増減	比率(%)
ごみ	もやせるごみ	183,959	184,192	182,638	184,876	183,177	▲ 1,699	▲ 0.92
	もやせないごみ	7,630	7,415	7,146	7,095	7,596	501	7.06
	粗大ごみ	4,797	※ 3,507	3,934	4,061	4,806	745	18.35
資源物	小計	196,386	195,114	193,718	196,032	195,579	▲ 453	▲ 0.23
	缶・びん、ペットボトル	9,628	9,461	9,326	8,828	9,180	352	3.99
	古紙類	17,052	16,228	16,542	15,469	14,872	▲ 597	▲ 3.86
	プラスチック容器類	3,380	3,137	3,047	3,070	3,293	223	7.26
	電球・蛍光灯、乾電池 / スプレー缶	389	397	392	394	409	15	3.81
排出量	使用済小型電子機器等	—	—	—	2	4	2	100.00
	小計	30,449	29,223	29,307	27,763	27,758	▲ 5	▲ 0.02
計画収集	合計	226,835	224,337	223,025	223,795	223,337	▲ 458	▲ 0.20
	ごみ量	130,678	128,676	127,266	126,406	126,014	▲ 392	▲ 0.31
	資源物量	28,495	27,432	27,764	26,448	26,486	38	0.14
直接搬入	合計	159,173	156,108	155,030	152,854	152,500	▲ 354	▲ 0.23
	ごみ量	65,708	66,438	66,452	69,626	69,565	▲ 61	▲ 0.09
	資源物量	1,954	1,791	1,543	1,315	1,272	▲ 43	▲ 3.27
埋立処分	合計	67,662	68,229	67,995	70,941	70,837	▲ 104	▲ 0.15
	量	32,071	35,310	34,181	33,934	34,028	94	0.28
計画収集に係る一人1日当たりごみ量(g/人・日)		718.6	704.4	699.1	690.2	689.9	▲ 0.3	▲ 0.04
平成28年4月現在の中核市47市中の順位		42	39	41	41	未集計		

家庭ごみの有料化を実施している中核市(13市)及び九州県都市(中核市以外に3市)における、効果と課題

○ 有料化導入の効果 (複数回答) 備考・具体的な回答内容

回答数 (複数回答)	全市
16市	全市
2市	
6市	
12市	
12市	
1市	費用負担の公平化が図られた
	その他

○ 有料化導入による課題

導入前のごみ量に戻った(戻りつつある)	0市	3市は、「戻りつつはないが、近年横ばい状態」と回答
不法投棄の増加	2市	
不適正排出の増加	4市	
有料化施策による管理コストの負担	6市	
インセンティブ付与による総処理費用の増加	2市	・収集サービスの拡充(戸別収集、分別収集品目拡大)によるもの
住民対応の負担増加	6市	・制度の内容を市民に十分理解してもらうことが難しく、その周知が課題となっている。
特になし	5市	

・当初予算を超える手数料歳入となり、家庭ごみ減量施策に充てきれない分を基金で管理しているが、市民還元となりうる施策の充実を模索している。  
 ・有料化導入により得られたごみに対する市民意識の高まりを持続させるための施策展開が必要  
 ・制度導入直前に有料化対象品目である可燃・不燃の駆け込み排出が多量にあった。  
 ・指定収集袋の品質確保も課題。  
 ・減免制度導入による事務量の増大  
 ・剪定枝や落ち葉は、緑化推進の観点や大量に発生し家庭での減量が困難であることから、例外的に無料として扱う一方で、芝生や草花は有料化の対象としたため、判断が困難である。  
 ・指定収集袋は袋自体には色を付けず、燃やすごみ用は青色の文字、埋立ごみ用は緑色の文字として作成したため、高齢者が見分けづらい。  
 ・袋の大きさを大きくして欲しいという要望があるが、ごみ減量・リサイクルの推進のため、導入当時の大きさを維持している。  
 ・ごみ袋の枚数や作業費用の見積もりが難しい。  
 ・消費税増税時における処理手数料の改定が煩雑である。

その他

○ 鹿兒島市の人口状況

国勢調査人口(人)	平成22年確報					平成27年速報
	605,846					600,008
推計人口(人、毎年10月1日) 国勢調査による人口を基に、その後における各月の人口の動きを他の人口関連資料から得たもの	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
	605,846	606,890	607,203	607,604	606,750	605,614

将来推計人口(人) (国立社会保障・人口問題研究所)	平成32年 (4年後)	平成37年 (9年後)	平成42年 (14年後)	平成47年 (19年後)	平成52年 (24年後)	平成72年 (44年後)※
	590,745	577,226	560,878	541,658	519,563	417,106

※平成72年(44年後)の将来推計人口は、同研究所の推計方法に準拠して鹿兒島市地方創生推進室が分析

本市人口ビジョン (鹿兒島市地方創生推進室)	平成72年 (44年後)
	515,000

※本市人口ビジョンは、上記の国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠しつつ、地方創生の取組みによって、維持を目指す人口

○鹿兒島市の家計状況

(1) 鹿兒島市の支出と収入 (総務省統計局「家計調査」より)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
<b>総世帯消費支出(円/月)</b>	254,889	264,368	269,987	259,940	237,348
いわゆる生活費。日常生活を営むために必要な商品やサービスを購入し、実際に支払った金額					
<b>総世帯エンゲル係数</b>	21.6	20.2	21.0	20.7	23.6
消費支出に占める食料費の割合。一般に、係数が低いほど生活水準が高いとされている。					
<b>勤労世帯実収入(円/月)</b>	531,822	471,975	518,087	486,740	479,239
いわゆる税込み収入。世帯員全員の現金収入を合計したもの					

(2) 鹿兒島県の勤労世帯賃金指数 (鹿兒島県企画部統計課「毎月勤労統計調査地方調査結果」より)

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
<b>名目指数</b>	100	100.4	98.2	98.0	100.3	101.1
平成22年の賃金と各年の賃金を単純に比較したもの。100.1以上なら増額、99.9以下なら減額となる。						
<b>実質指数</b>	100	100.8	99.1	98.7	98.3	97.8
名目指数を消費者物価指数で割って指数化したもの。賃金の購買力を示す指標となる。						

○ 鹿兒島市の高齢者単身世帯の状況(平成7年から平成22年の国勢調査)

		総数		男		女		総数		男		女	
平成7年		<b>16,631 (6.30%)</b>		2,662		13,969		<b>21,302 (8.07%)</b>		3,903		17,399	
	65～69歳	4,561 (1.73%)		855		3,706		4,941 (1.87%)		1,135		3,806	
	70～74歳	4,639 (1.76%)		630		4,009		5,635 (2.13%)		1,110		4,525	
総世帯数	75～79歳	3,662 (1.39%)		460		3,202		5,199 (1.97%)		766		4,433	
231,437	80～84歳	2,448 (0.93%)		410		2,038		3,335 (1.26%)		473		2,862	
	85歳以上	1,321 (0.50%)		307		1,014		2,192 (0.83%)		419		1,773	
	平成12年	246,494											
総世帯数													

		総数		男		女		総数		男		女	
平成17年		<b>24,271 (9.19%)</b>		4,765		19,506		<b>27,635 (10.46%)</b>		6,176		21,459	
	65～69歳	4,649 (1.76%)		1,300		3,349		5,420 (2.05%)		1,897		3,523	
	70～74歳	5,768 (2.18%)		1,174		4,594		5,335 (2.02%)		1,344		3,991	
総世帯数	75～79歳	5,902 (2.23%)		1,003		4,899		6,248 (2.37%)		1,130		5,118	
254,694	80～84歳	4,705 (1.78%)		697		4,008		5,769 (2.18%)		985		4,784	
	85歳以上	3,247 (1.23%)		591		2,656		4,863 (1.84%)		820		4,043	
	平成22年	264,093											
総世帯数													

※1 全て一般世帯であり、施設入所世帯等は含まれていない。

※2 平成12年及び平成7年の数値は、鹿兒島市、旧吉田町、旧桜島町、旧喜入町、旧松元町、旧郡山町の合計